

令和3年度

専攻科修了時アンケート調査結果報告書

創造工学専攻長

令和3年度 専攻科修了時アンケート分析

1. アンケート回答数と回答率

所属コースとしては品川キャンパス3コース（機械、電気電子、情報）と荒川キャンパス2コース（機械、電気電子）の5つに分類して、アンケートでの回答を依頼した。回答数と在籍学生数は以下の通りであった。

機械工学コース（品川）	：	5名回答/13名在籍
電気電子工学コース（品川）	：	12名回答/13名在籍
情報工学コース（品川）	：	0名回答/1名在籍
機械工学コース（荒川）	：	3名回答/3名在籍
電気電子工学コース（荒川）	：	5名回答/6名在籍

ここで、本アンケートの回答を行うためには校内でのアクセスが必要であるが、コロナ感染症の影響（登校機会の減少）や、学生指示への不備（入力依頼の遅れ）があり、十分な回答数を得ることができなかった。次年度以降は特別研究の審査会で入力してもらうなど、収集方法への改善を周知徹底することを送り事項とし、今回は回答のあった4コースについて分析を行った。

2. 創造工学専攻全体

専攻科の所属コースでの専門科目に対する勉学や活動については、いずれのコースも3を超える高い評価を得られた。今回のアンケート結果においても、特別研究に従事したことが全体的に高い評価を得ているのは、特別研究Ⅱ担当教員の指導が十分供与されていて、少数精鋭を育成する教育体制が維持されているためだと考える。今後も教員の研究活動への支援を推進して、担当可能な教員の育成に努めていくことが必要である。また、修了後の進路についても3.6と高く、昨年に比べて改善傾向が伺える。昨年は就職・進学活動においてコロナ禍が大きく影響したのに対して、今年はコロナ感染症の影響はあるものの、感染防止をしながら活動を活性化させたことが功を奏していると考えられる。一方で、一般科目の文系科目については全体的に評価が低く、専門性の強化を重視するために専攻科へ進学したと考える学生が多いことが伺える。

3. 各コースの傾向

コース別では両キャンパスの機械工学コースの満足度が高いことが伺える。いずれも全体平均以上の回答が多く、専攻科在籍を通じて自らの成長を実感することができていると思われる。一方、電気電子コースは品川と荒川で異なる結果となった。特に品川キャンパスの電気電子では項目毎の評価が大きく変動している。これは入学時に専攻科が第一志望でなかった割合が最も高い学生たちであったため、専門的な勉学や研究以外の活動には消極的になったのではと推測される。一方、荒川キャンパスは全体的に電気電子工学の満足度が高い傾向が伺える。中でも自然科学の基礎力と専門の応用/実践力の満足度が特に高く、授業等の内容が充実していることが伺える。また、コミュニケーション力も高い評価を得ていて、これは学会発表などに積極的に参加していることが要因と推定される。

4. 修了要件の周知状況

「専攻科の修了要件を知っていますか」の問いに対し全員、知っている、あるいは、ほぼ知っていると回答しており、十分に周知がなされていることが確認できた。

5. ディプロマポリシーとの対比

(1)～(7)に示す専攻科のディプロマポリシーに関して、全ての項目で目標の3以上の評価を得ており、修了生に対してディプロマポリシーの内容を網羅した教育がなされていることが伺える。

(1) 学習力

全コース平均は3.29であるが、特に荒川キャンパスの電気電子コースの得点が高い傾向が見られた。

(2) コミュニケーション力

全コース平均では3.42であるが、荒川キャンパスの両コースが3.8と高い。これはエンジニアリングデザイン科目で学外知見者への聴取など、対外的な活動に積極的に参加させたことが要因と推定される。

(3) 人間性・社会性

全体的にスコアが低く、中でも品川キャンパスの電気電子コースが2.92と若干低い。同じ授業を受けている品川キャンパスの機械工学コースの回答は3.4であるため、原因の究明については現在のアンケート項目では図り知ることが難しい。この点については教育改善室と連携を取り、授業アンケートの分析なども参考にして原因を探る。

(4) 基礎力：数学、自然科学

こちらはコースごとにかなりばらつきがあり、個人的な授業への受け止め方がそれぞれ異なっていることが推察される。

(5) 基礎力：専門

全コース平均で3.53であり、専門教育が効果的に行われていることが伺える結果となった。

(6) 応用力・実践力

全コース平均で3.62と高く、実践的な教育の効果があらわれている結果と推察される。

(7) 創造力

全コース平均で3.30であり、工学的立場から社会に存在する問題を解決していくという専攻科のディプロマポリシーを実現して修了に至っていることが伺える。ただ若干低いコースもあり、創造力育成の観点から見直しが必要な部分も見受けられる。

6. その他

本年度の修了学生は入学時からコロナ禍の影響を多大に受け、インターンシップやエンジニアリングデザイン授業が満足に実施できていないことがアンケート結果に大きく影響を与えていると考えられる。また、進路決定に関しても改善はしたものの、コロナ禍が影響している部分は存在すると思われ、今後、外的要因にも影響されにくいキャリア支援や教育体制の構築が運営上の課題だと考える。

以上

R3年度 専攻科修了時アンケート

—●— 機械工学（品川）
 —●— 電気電子工学（品川）
 —●— 機械工学（荒川）
 —●— 電気電子工学（荒川）
 —○— 全体

